

◎熱帯林業講座◎

わが国の森林土壌のように、非常に若い地形面上に分布し、しかも常時湿潤状態にある土壌では、粘土の移動集積作用はまだほとんど進行していない。従って、Bt層は、わが国の森林土壌の生成分類を考える場合には、ほとんど必要ないものである。

この一事だけをとって見ても、熱帯においては、気候や植生のみならず、土壌そのものも、わが国のものとは大分趣を異にすることが、お分かり頂けるものと思う。

新刊紹介

◎みどりの国際協力に取り組む—JICA 専門家たちの記録 地球の森林を考える会編 A6版 311 pp. (株)第一プランニングセンター, 東京, 1993. 4. 12 刊 3,800円

JICAの「みどりの国際協力」が活発となってから、すでに20数年となる。国際経験の少なかったわが国では、現地の資料も乏しく、いわば手探りの状態で始まったといえる。当時にくらべると、現在の「みどりの国際協力」の対象国や場所も、そしてその内容も格段にひろがっている。協力の経験者も着実にふえてきており、熱帯など途上国のみどりについての情報も蓄積されてきている。

本書はこの「みどりの国際協力」に直接取り組んで、これを支えてきた多くの専門家たちの生の声の記録である。プロジェクトの内容も、また取り組む専門家の経歴にも大きい幅があるが、数々のプロジェクトに共通して、その生みのなやみ、推進の苦しみ、そしてささやかでも手ごたえを感じたときの喜びなどが、ほほえましいエピソードとともに語られている。

「みどりの国際協力」は単に森林や自然の問題だけでなく、人口や貧困の問題をかかえる対象国の社会、経済問題にもふれざるをえない困難な複雑な問題でもある。乏しい現地情報や実施場所の不便さ、そして社会情勢の不安さなどになやみながらも、専門家たちの勤勉さ、賢明さ、協調性が、カウンターパートとの心のふれ合いを通してプロジェクトを支えてきたことが、痛いくらい生々しく感じられる。大上段からの国際協力論議でないだけに、かえってこの「みどりの協力」の重要性が浮きぼりにされている。林業協力の関係者だけでなく、広く一般の方々にも「みどりの国際協力」の実態と成果を理解していただくためにも、本書の活用が望まれるところである。(蜂屋欣二)